

文化の窓

秋の企画展

中通りの仏像

シリーズ・福島県の仏像②

期間 九月二十二日(金)～十一月二十六日(日)
場所 福島県立博物館

中通り地方は、東北本線に沿って南北に長く、また阿武隈山地が東方にひかえている。細長い地域ではあるが、各時代にわたって、特色のある仏像が伝えられ、この地域の歴史、文化の深さが知られるのである。

福島市大蔵寺には、平安時代の古像が二十八軀も伝存している。しかし長い星霜を経て、当初の完全な姿をとどめるものは少ない。破損仏とはいえ、このように平安時代の仏像を大量に伝えているところは、他にみられない。すべて一木造で、一本の木から頭体の像の中心部を彫出している。平安時代も早い頃の像は、量感が豊かで、衣文の彫りなども太く、深い。時代が下るにしたがって、次第に穏和な造形へと展開していくが、一木造の技法的伝統はなお生き続けていく。

平安時代の仏像の分布地域は、ある程度限定されるが、鎌倉時代に入



▶大蔵寺 地藏菩薩立像 (福島市)



▲八槻都々古別神社 十一面観音菩薩立像 (棚倉町)



▲善性寺 阿彌陀如来坐像 (二本松市)

ると、中通り地方のほぼ全域にわたって作例を認めることができる。棚倉町八槻都々古別神社の木造十一面観音立像は、天福二年(一一三三)に修行僧によってつくられたものである。修行僧の彫刻らしく、荒々しい中にも氣力の充実した造形である。さらに中央の作風を受け継いだ像が、豊富になるのもこの時代からである。二本松市善性寺木造阿彌陀如来立像は、その好例といえよう。南北朝時代に入っても、前代とほぼ同様に遺例が各地に分布している。特に阿武隈山地にこの時代の作例が、集中して存しているのは注目される。中央仏師の活躍が顕著になるのも、この時代である。その代表ともいえるのが仏師乗円で、福島市陽泉寺、二本松市善性寺、古殿町西光寺などに遺品を残している。一人の仏師が、このように一地方に多くの作品を残していることは、全国的にも稀なことである。その他、常葉町成願寺には仏師円西の作品が伝えられている。この時代、多くの中央仏師が当地方に入ってきたことが知られるのである。この地方の造像活動の活発な様子が窺えるであろう。